

【前座】

OSS公開のために会社の中で解決 しないといけないこと ～ あるSIerがやってきたこと



2019年 夏

溝口則行 (TIS/OBCI/OSSコンソーシアム/他いろいろ)

オープンソースの「今」を伝える

オープンソースカンファレンス
2019 Kyoto



溝口 則行 , TIS株式会社 IT基盤技術本部

～2000年代前半:

LISPでエキスパートシステム型ビジネスアプリの開発
UNIXとC言語を中心にしたシステム開発
消費者向けインターネットサイトのシステム構築, 運用保守

2000年代前半～:

TIS戦略技術センター(現組織名)にて技術コンサルティング
得意分野: ・Linux/UNIX系システムでのミドルウェア
・性能エンジニアリング
ミドルウェアを中心にしたOSS活用推進

2015年度～:

・OSS推進室 → IT基盤(全般)の技術政策担当

その他:

- ・OSSコンソーシアム 副会長
- ・オープンソースビジネス推進協議会(OBCI) 理事
- ・OpenAMコンソーシアム 監事
- ・経済産業省所管 情報処理技術者試験 試験委員
- ・執筆: @IT 連載「性能エンジニアリング入門」, 他

http://www.atmarkit.co.jp/fnetwork/index/index_perform.html



◆概要◆

OSSへの取り組みが個人のモチベーションに支えられているのも事実ですが、持続的であるためには組織での仕事にできるのが望ましいのもたしかです。

ところが、カイシャでの成果をOSSとして公開するのは、けっこう面倒なことがたくさんあります。面倒ですが、いちど扉を開いてしまうとその後はわりと簡単に進みます。

そこで、「面倒くさいなあ」と思いながらも、壁にぶつかりながらやってきた某Sierでの体験談をお話しします。

こんなOSSを公開してきました

OSSとして公開した成果



**Zabbix AWS
Monitoring
Templates**
(ロゴ無し)

私たちのチーム以外にも…

TIS、アプリケーション開発ノウハウを提供するWeb
サイト「Fintan」を公開
～ 開発ガイド・テンプレート、プラクティス集、
ツールなどの無償公開と、開発研修やスクラム開発の
共同実施なども合わせて提供 ～



TISインテック
TIS)は、TISのア
(<https://fintan.jp>

Nablarch (ナブラーク)とは、企
Javaアプリケーション開発/実行基

TIS、AWS上でスピーディーにチーム開発環境を構築
するテンプレート『Collaborage (コラボレー
ジ)』をOSSとして公開
～ AWS上で開発環境の準備を最短4時間で実現 ～

2018年10月30日
TIS株式会社

TISインテックグループ
TIS)は、アマゾン ウェブ
『Collaborage (コラボレー
ジ)』をOSSとして公開する
ことを発表します。

『Collaborage』は、TIS
向けに開発したチーム開発環
境を提供するWebサイト「Fintan (フィンタ
ン)」を公開することを発表し

TIS、自然言語処理・機械学習向けデータ作成ツール
「doccano」をOSSで公開
～ 自然言語処理・機械学習を行うためのデータ作成
を容易にし、企業システムにおける活用を促す ～

2018年11月6日
TIS株式会社

TISインテックグループのTIS株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役会長兼社長:桑野 徹、以下
TIS)は、自然言語処理・機械学習向けのデータ作成ツール(アノテーションツール)「doccano (ドッカー
ノ)」をオープンソースソフトウェア(OSS)として公開することを発表します。

OSS公開するときの面倒なこといろいろ

- **課題①: なぜ無料で公開しちゃう？問題**
- **課題②: 何を公開する？公開できる？問題**
 - 著作権(“これ誰のもの?”), 特許, 商売, etc
- **課題③: 承認問題**
 - そもそも承認方法や承認者が決まってる？
- **課題④: ライセンスは何を選ぶ？問題**
- **課題⑤: クオリティ問題**
 - 既存コードの品質, コード規約, CIの仕組み, etc
- **課題⑥: プロモーションしたいけど問題**
 - + コミュニティの形成(立ち上げ)
- **課題⑦: リポジトリをどこに置く問題**
 - (社外はGitHub! 社内はどうする?)
- **課題⑧: 名称／ロゴ／商標問題**
- **課題⑨: (最後の大问题) 公開しちゃった後どうする？問題**

開発以外にやる事が盛りだくさん

公開用

L1	L2	L3	L4
方針検討	コンセプト	公開目的	公開目的の明確化
方針検討	コンセプト	公開範囲	初期リリース公開範囲の具体化
方針検討	OSSライセンス	ライセンス選定	類似するOSS公開事例確認
方針検討	OSSライセンス	ライセンス選定	選定に必要な情報整理
方針検討	OSSライセンス	ライセンス選定	法務部確認
方針検討	リポジトリ運用	GitHub 机上評価	
方針検討	リポジトリ運用	GitHub 実証検証	
方針検討	リポジトリ運用	リポジトリ体系	
方針検討	リポジトリ運用	運用ルール	ルール策定
方針検討	CI	CI方式	CI方式検討
コンテンツ作成	ツール整備	コントロールマシン	マシンイメージの提供形態検討
コンテンツ作成	ツール整備	コントロールマシン	マシンイメージの作成
コンテンツ作成	コード整備	Ansible, Serverspecコード	コード修正ポイント洗い出し
コンテンツ作成	コード整備	Ansible, Serverspecコード	コード規約の再定義
コンテンツ作成	コード整備	Ansible, Serverspecコード	コード修正
コンテンツ作成	ドキュメント整備	事前検討	ドキュメント構成
コンテンツ作成	ドキュメント整備	事前検討	ドキュメント形式
コンテンツ作成	ドキュメント整備	ドキュメント作成	雛形作成
コンテンツ作成	ドキュメント整備	ドキュメント作成	ドキュメント執筆
コンテンツ作成	ドキュメント整備	ドキュメント作成	内部レビュー、修正
公開作業	リポジトリ移行	移行計画	計画策定
公開作業	リポジトリ移行	移行計画	内部レビュー、修正
公開作業	リポジトリ移行	移行実施	(後日タスク詳細化)
公開作業	リポジトリ移行	テスト運用	(後日タスク詳細化)
公開作業	リリース		(後日タスク詳細化)
社内手続	商標登録		
社内手続	OSS公開	OSS公開決裁	決裁起案
社内手続	OSS公開	GitHub利用手続	決裁起案
社内手続	OSS公開	GitHub利用手続	アカウント開設
社内手続	OSS公開	社外発信申請	申請起案
社内手続	OSS公開	プレスリリース	初案作成
社内手続	OSS公開	プレスリリース	内容修正
プロモーション活動	イベント	OSC 2017 Hokkaido【7/14-15】	
プロモーション活動	イベント	OSC 2017 Kyoto【8/4-8/5】	
プロモーション活動	イベント	JulyTechFesta【8/27】	
プロモーション活動	イベント	事例セミナー	
プロモーション活動	イベント	OSC 2017 Chiba【9/2】	
プロモーション活動	メディア	〇〇〇〇〇〇	
プロモーション活動	メディア	〇〇〇〇〇〇	
プロモーション活動	加入団体	〇〇〇〇〇〇	
プロモーション活動	加入団体	〇〇〇〇〇〇	
プロモーション活動	加入団体	〇〇〇〇〇〇	

課題①: なぜ無料で公開しちゃう？

- 組織で承認を得るには、胸を張って主張しないとイケないこと
- **一般的に語られる『OSSの価値や意義』は嘘ではないが、それが『自社が成果をOSS公開する理由』になってる？**
 - 普通の会社では、理由にならないか、説得力が無いかのどちらか
- 最初の課題から突き放してしまうけれど、**自分たちにとっての理由を、自分の言葉で語るしか無い**
- ヒントになるかもしれない観点:
 - かなりSler視点に偏っているかもしれないが
- **公開しないで成果の価値を最大化する方法があるか？**
- **商品 (software) 販売がメインのビジネスかどうか**
- **特定分野の技術力を示せば、その後に仕事はついてくる**

課題①: 何を公開する? 公開できる?

●【技術面】

●汎用的な機能部分を切り出して独立させる?

- その後の保守サイクルをどうするかを検討

●他者の特許に触れてない?

●逆に自社で特許出願したいなら早計な公開は×

- でも特許とOSSは相性はあまりよくない (共存できないわけではない)

●【非技術面】

●「自社で」「自主的に」「新規に」開発したならわかりやすいが…

- なにかを流用してない? (部分的にでも)
- 他社に委託して開発してもらった? →契約を要確認
- 販売・納品した先がある → 権利まで渡してないか?

●受託開発の仕事が絡んでいたら…

- うかつに断定は難しいけど、きっと難しいと思う。
- 契約によってNGじゃない場合にも道義的にどうでしょう。

●営業的にはプラス面/マイナス面の両方の可能性

- 公開したら有償で売れなくなる? (…とは限らないのだけど)。

課題②: そもそも承認方法や承認者が決まってる?

- “なんで無料で公開しちゃうんだ?” を説明できるか(課題①)を含む課題だが、ここではその後の手続的な面倒さの話:
- **OSS公開に該当する稟議決裁規定があるか?**
 - 該当する決裁規定がある場合はわかりやすいが…
 - 「OSS公開」とは書いてないと推察
→ 何に該当するのはか管理部門とよく相談
 - 社内をさんざん聞き回った結果…
規定が無い方が多いかな。(“あるSler”の場合も)。
 - **決まってる場合:**
 - デッドロックしてなかなか話が進まないケース (他社から聞いた話)。
 - もし「決まってるので承認不要だけど」(あるSlerの例)と言われても、自己防衛的に何らかの承認プロセスを踏んでおいた方がいい。
 - **ライセンス(後述)観点から、法務担当を巻き込む必要あり**
 - 決裁等を管理する部門ではライセンス問題に気付かないかも知れない
 - **広報部門も**
- これも産みの苦しみで…
基本的に2回目以降はクリアになっている(はず)

課題③: ライセンスは何を選ぶ?

- **とってもめんどくさい** (もし安易に考えてたらそれは間違い)
 - 「大勢が選んでるものにしとけば、まあ大丈夫だろう」とか「最近ではGPLよりもApacheライセンスが多いらしいよ」で済ませたい。 けれど…
- **基本的なポイントは自ら理解しておかないと後悔するかも + 法務担当にもアドバイスを頼み込む (付き合ってもらおう)**
 - 会社が世間に公開するモノの権利の規定なので、一義的には法務担当が責任を持つべき問題だけど、彼らの方に公開の動機があるわけじゃないので、たぶん疎ましく思われる。
- **それでも、やっぱりなかなかシンドい**
 - OSS推進してン年も経ち「必要最低限の事はわかっているつもり」だった、某社推進責任者も…
- **OSSで公開しても、自分／自社に著作権があることにはかわりはない**
 - 著作権者が「他社に〇〇を許す」こと
 - なので、「他社に何を許すのかよいか？」はよく考えよう。

この問題に踏み込みすぎると何時間あっても足りないのでは…

課題③: ライセンスは何を選ぶ? - 参考

● 参考:

- 「IoT時代におけるOSSの利用と法的諸問題 Q&A集」

<https://www.softic.or.jp/ossqa/index.htm>

- ↑ 上記のケーススタディ的なもの:

<http://www.softic.or.jp/seminar/180228/index.htm>

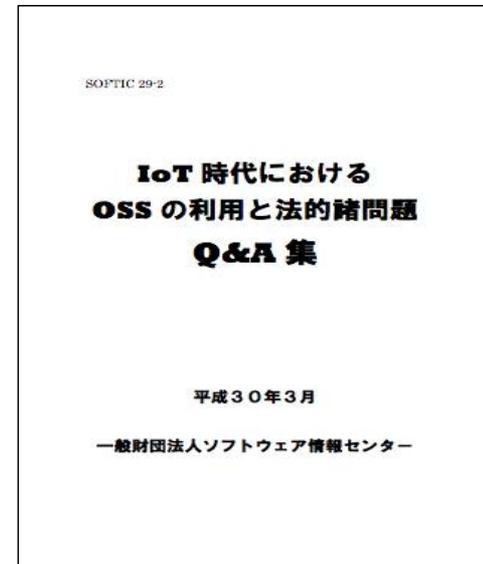
にリンクがある「想定事例 I, II」

- 「OSSライセンスの教科書」

上田理 著, 岩井久美子 監修, 技術評論社

<https://gihyo.jp/book/2018/978-4-297-10035-3>

- (その他)



課題: クォリティ問題 (そもそもの品質+ソースの見た目)

公開用

世間にさらすならクォリティもそれなりにしたいと思うのは人の常…

No.	問題点	優先度	ステータス	担当者	解決策	備考
1	クラウド、コンテナへのコントロールマシン展開は手動					
2	Excel2YAMLのパリテーション機能が貧弱					
3	Excel2YAMLがインベントリファイルに記載できる項目を網羅していない(sudo/パスワード、接続ポート)					
4	READMEやWikiの記述間違いが残っている可能性あり(総量不明)					
5	Get Startedがどこにあるのかわかり辛く、スタートできない					
6	Get Startedの内容が重たく、容易にスタートできない					
7	Get Startedに具体例が欠如している					
8	PreDevを流していない環境でテストしていない					
9	rootユーザでの接続を前提にテストしている					
10	ターゲットマシンの初期構成が特定の場合しかテストしていない(NICの枚数など)					
11	大量のターゲットサーバがいた場合に、一台のコントロールマシンで何台捌けるのかがガイドされていない					
12	特定のAnsible、Serverspecバージョンに依存したplaybook、テストコードになっている					
13	SHIFTwareを実行できるOSの種類が明示されていない					
14	SHIFTware自体の後方互換性について触れられていない					
15	自主習得を助けるコンテンツがマニュアルしかない					
16	秘匿パラメータをリポジトリから隠す機能を提供していない					
17	ほぼすべてのルールがPreDevに依存している					
18	パッケージインストールの一連のタスクがモジュール化されていない					
19	任意の状況に対応できるように、条件分岐が非常に複雑					
20	動作が読みづらくなるようなコーディングがなされている * set_factの乱用					
21	動作が読みづらくなるようなコーディングがなされている * 無情報の変数名					
22	動作が読みづらくなるようなコーディングがなされている * 既存モジュールの不使用					
23	正当な理由のないコードの分割がある					
24	正当な理由のない巨大コードの未分割がある					
25	テストコードにおいて、describeが日本語で記述されている					
26	異なる構成管理ツール、インフラテスト自動化ツールを用いて、構成管理、テストをすることができない					

課題⑤: プロモーションする?

● プロモーションはしたいけど...

● 毎日どこかから「〇〇社が△△をOSSで公開しました」

- つまり 1 企業単独でのOSS公開ではニュース性に乏しい

● やっぱり, 知ってもらわないと寂しい

- OSS公開の利点は会社の宣伝だけとは限らないけれど...

● でも, 大きな広告宣伝費が使えないのが普通

- 見合う収入が見込めるのであれば別だが, 普通は無理。

● どこで? どのように?

● 正攻法: 他社 (Vuls) の例

- 開発者のキャラもポイントだが,
- 脆弱性検知ツール「Vuls」の開発者に聞いたOSSをバズらせる極意
<https://thinkit.co.jp/article/10092>

● 仲間をつくる (これも正攻法)

- 既存団体を使って ①その会員向け ②チャネル利用(Webサイトなど)
- 新たに団体を作る。 →次ページに例

● メディアに記事を書く →勝手がわからないと最初は難度高めかも

● OSCで発表する →これ自体が宣伝というよりOSS仲間の波及効果

課題⑤: プロモーションする? - コミュニティの立ち上げの一例

研究会

Doorkeeper 新規イベント作成

IaCC IaC活用研究会

IaC活用研究会 キックオフ #1

SIの労働生産性向上を目指す、ITエンジニアのためのコミュニティ「IaC活用研究会」キックオフイベント

🕒 2018-01-23 (火) 18:30 - 21:30
[Google カレンダーに追加](#)

サイオステクノロジー株式会社
📍 東京都港区南麻布2-12-3
[地図を表示](#)

👤 檜山 真心 徳田大輝 淡路大輔 石川大明 山下裕晃 緒方亮 宇野 陽
👥 一朗 + 45人の参加者
[参加者リスト](#)

OSS

SHIFT ware の利用イメージ

SHIFT ware の利用シーン

クラウド・オンプレミスでの利用

AWSやAzureなどのパブリッククラウド上、オンプレミス上のシステムに対応しています。

大量の構築作業

一度に大量のシステムを構築するなど、あるいは他のプロジェクトなどで共通化されており活用可能なシステムが多くある場合などは有効です。

構築後のパッチ適用

脆弱性の確認であったり、パッチの適用であったりする保守・運用面で手間がかかっているものに対して、ツールやテンプレートを上手に活用することで人の作業が減り、相対的なヒューマンエラーの回避にもつながります。

課題⑥⑦: そのほか

● 課題⑥: 名称／ロゴ／商標問題

● 名前で悩みはじめるといつまでも…

- でも安易に付けると、すぐに他とかぶってるのが見つかったり…
- ドメイン名や商標にも使いたいなら、腰を据えて考える&調べるしかない → 手間ひまかかるが

● ロゴ…

- 予算があれば簡単だけど
- 低予算でほどほどのデザインをしてくれるところもある

● 商標…

- 会社の成果のOSS公開なら、商標登録はしておいた方が無難
- 最低限の費用はかかるのでそこは割り切ろう
- 「OSSだから商標を取ってしまうのは悪いこと」ではない

● 特許 → 課題①で

● 課題⑥: リポジトリをどこに置く問題

- 「公開は(たとえば)GitHubで」は、いいとして…
- じゃあ、社内からアクセス出来る? アクセス可に出来る?

課題⑧: さいごにいちばん重い 公開した後の継続性の大きな問題

- 「持続的であるために組織の仕事にしたい」と言ったものの…
- 年後にも継続している確証があるか？
 - 「Yes!」と自信を持って答えられる方が少ない
 - 「わからないならやめとけよ」と言われぬか
- 公開しちゃったら (世間の目にさらしちゃったら)
 - 「簡単にはやめられない」と考えるか (←たしかにかっこ悪い)
 - 「誰がメンテしてもいいんだから大丈夫だ」と考えるか
 - どちらかの極論もよくないが、柔軟に考えていこう。
- デカイ成果は、続けるのも、引き継ぐのもシンドイ
 - なるべく小さめのくりにしておくのが得策かと (もしそういう工夫ができるなら)
- 「明確な答はない」けれど、
かまえずぎて身動き取れなく方が損失

OSS活動はヒトがする = 芸人の育て方

正規軍ではない特殊部隊としての動き方

特殊部隊？ ゲリラ部隊？ 反乱軍ではなかったと思うが…

●ピーク時の体制で社員10人

●とにかく外で目立つ

- 新人も入社3ヶ月後にはコミュニティ活動
+オジサン達と懇親会も

- 一人一芸。OSCは絶好の機会。

リーダ(私)は芸能マネージャ。

「新人の〇〇はいつデビューさせよう？」

●ちょっとした成果でもOSS公開は良。

- 特にOSS村での認知度はアップ。
- 既存のOSSの活用がメインだとしても。

●社内は割とほったらかし。

- 外から壁を叩いてもらう; 内弁慶なSlerにはこれが効く

特殊戦闘員①

HyClops for Zabbix

概要

HyClopsはZabbixの拡張ツールです。Amazon EC2やVMware vSphereの環境
理することを実現します。

我々の目標は、あらゆる環境でZabbixを運用できるようにすることです。パブリッククラウド環境
とオンプレミス環境を統合するだけでなく、統合するだけでなく、
化を推進し、さらに、統合監視ツールであるZabbixを拡張し、ハイブリッ
その第1ステップとして、統合監視ツールであるZabbixを拡張し、ハイブリッ
をZabbixから実現できるようにしました。現在対応している環境は、AWSお

クラウド環境を監視するための
拡張機能をOSS公開

ZABBIX-JP Japanese Zabbix Community

HOME NEWS FORUM DOCUMENTS DEMO CONTACT

OSS運用管理勉強会

オープンソースソフトウェアの運用管理ツールの活用を促進するための
体です

コミュニティ活動への
参加・運営協力

Software Design plus

ザビックス Zabbix [Version 4.0対応] 改訂2版 統合監視

複雑化・大規模化する
インフラの一元管理

徹底活用

マニュアルだけではわからない
活用のノウハウを書籍化
【好評につき改訂2版】

TIS株式会社
池田大輔 [著]

オンプレミス・クラウド・コンテナを
シンプルかつ柔軟に自動監視する

- SNMP、IPMIを活用した物理環境の監視
- vSphere環境、Docker環境の監視

ZABBIX The Enterprise-class Monitoring Solution for Everyone

Product Solutions Services Training Partners Download Community About Us

Zabbix Conference 2015

Community Area

Events

Zabbix Conference 2015

Agenda
Fun-Stuff Program
Location
Sponsors
Visas
Terms and Conditions
Photo gallery

Zabbix Conference Japan 2015
Zabbix Conference 2014
Zabbix Conference Japan 2014
Zabbix Conference Japan 2013
Zabbix Conference 2013
Zabbix Conference 2012
Zabbix Conference 2011

Webinars
Forum
Blog

5th annual Zabbix Conference
11 - 12 September 2015 | Riga, Latvia
Share your passion and search for new knowledge

ZABBIX 2015
Conference

Zabbix Conference 2015

ZABBIX 2015
Conference

Share you
Join us in Riga
Latvia on Se
users, follow
Blog

ラトビア共和国・リガで開催された
年次大会での講演

日本語 Pyco
Customer Log

特殊戦闘員②

災害対策のためのストリーミングレプリケーション検証

コンソーシアムWGリーダーとして検証成果を発表

可用性について発表したのはTIS IT基盤技術本部 IT基盤技術推進室の中西剛紀氏(写真1)。中西氏は「DRのサービスレベルは高ければよいとは限らない。災害発生時にITシステムをどのレベルで継続するのか、事前に検討しておくことがポイント」と話す。災害は起こるか分からない。目標レベルを定めてから計画する必要がある。



1) 各種ツールの情報収集と提供、整備などの活動を通じて、ミッションクリティカル性の高いエンタープライズ領域へのPostgreSQLの普及を推進することを目的として設立された団体です。

MENU

- ホーム
- お知らせ
- プレスリリース

CodeZine [コードジン]
開発者のための実践系Webマガジン

Summit2013 Kansai Action! 祭

Keynote Design

ホーム ニュース 記事 注目ブックマーク コミュニティ デブサミ

C# | Java | VB.NET | C++ | PHP | Ruby | Perl | JavaScript | SQL | Adobe | 言語一覧

PostgreSQL 9.2の同期レプリケーションを利用する際の勘所

近未来の技術トレンドを先取り！「Tech-Sketch」出張所 第3回

有力メディアを通じて検証成果を発表

小林 達 (TIS株式会社) [著] 2013/05/01 14:00

いいね! 67 +1 4 BI 51 ツイート 42

本連載では、TIS株式会社が提供している技術ブログ「Tech-Sketch」から「コレは！」という

1 2 3

業界を代表するトップエンジニア達の一員として

PostgreSQL monitoring template for Zabbix

- pg_monz とは
- リリースノート
- ダウンロード
- 動作環境
- 動作イメージ

PostgreSQL monitoring template for Zabbix (pg_monz)

pg_monz とは

PostgreSQL監視機能をOSS公開

PostgreSQL monitoring template for Zabbix (pg_monz) PostgreSQLの各種監視を行うためのテンプレートです。

pg_monzの目的

pg_monzを導入することで、PostgreSQLの死活監視、リソース監視、性能監視などが行えます。PostgreSQL単体で稼働するシングル構成の状態、PostgreSQLのStreaming Replicationを使った冗長構成の状態、pgpool-IIを使った負荷分散構成の状態の監視を行うことができ、PostgreSQLを使用する様々な環境の監視を行うことができます。PostgreSQL環境の監視を行えるようにすることで、障害発生時の自動復旧処理に活用できたり、長期的な運用時の状態の変化の認知に有効に働きます。

pg_monz version 1.0.0からの変更点

DBスペシャリストを認定する資格 / OSS-DB技術者認定試験

OSS-DB

Open Source Software Database Professional Certification

LPI-JAPAN OSS-DB Silver/Gold

業界を代表するトップエンジニア達の一員として

SPRA OSS, Inc. 日本 OSS 推進委員会
TIS株式会社 IT基盤技術本部 OSS推進室
中野剛紀
OSS-DB Gold取得

TIS株式会社 IT基盤技術本部 OSS推進室
中西剛紀
OSS-DB Gold取得

日本コミュニケーションシステム株式会社
テクノソリューションズ株式会社
テクノソリューションズ株式会社
高橋智雄
OSS-DB Gold取得

特殊戦闘員③

8月
28

3社共同企画 Ansible 夏祭り

～RedHat & HPE & TIS～ in ドリコム

主催：tsarah0822



“伝道者”として振る舞うこと
に思いのあるタレント



全員がOPCELを取得しました!

イベントへのお問い合わせ



養成所としての団体活動

参考: 私たちが参加している団体や研究会

団体名	活動概要	役職
OSSコンソーシアム	OSS市場の活性化に向けた問題点の解決や利点の発展を目的とする団体。部会活動が活発。 ・クラウド部会, ・データベース部会, ・他	副会長
オープンソースビジネス推進協議会 (OBCI)	OSSビジネス市場の創造を目的としてミドルウェアを中心としたOSS活用に関する情報提供や情報サービス産業に対する有償サービスの拡充などの支援活動を実施。	副理事長
日本OSS推進フォーラム	OSSにより、独占の弊害の排除と選択肢の拡大、技術革新の促進、人材育成、メンバー企業や日本の競争力の強化。 ・クラウド技術部会 ・広報部会	
IaC活用研究会	TISが主催する研究会。2017年度発足。Infra. as Code の推進。 [TIS, SIOS, リアルグローブ, 他]	幹事社・発起人
PostgreSQLエンタープライズコンソーシアム (PGECons)	エンタープライズ領域へのPostgreSQLの普及を目的として設立された団体。中心メンバーとして検証作業を主導するとともに、コンソーシアムの運営にも関与。	運営委員
OSS運用管理勉強会	Zabbixに代表されるOSSの運用管理ツールを企業システムで活用するための情報交換/発信を目的として設立。	世話人
LPI Japan (Linux Professional Institute)	Linux (LPIC→LinuC) , OpenStack/CloudStack, OSS-DB, HTML5の技術認定試験の運営団体。	
OpenAMコンソーシアム	OpenAMを継続して維持・発展させることを目的に設立された団体。セミナーの開催、イベント出展による普及促進活動を行っている。	監事

まとめ？

…ではなく僭越ながら皆さんへの提言

- 同業の競争相手に勝つことがそんなに大事か？
 - それとも、ITのプロとして社会が必要とするものを提供できることが大事？
- OSS特有の心配事はたしかにある。
 - 品質, ライセンス, 知財, 特許, etc.
でも, OSSの心配事のほとんどは, OSSじゃなくても同じ。
- 同僚は少人数でも出来ることはたくさんあるし, 顧客や業界や社会に貢献できる。
 - クローズな領域では無理でも, オープンな領域なら可能。

- 社外にたくさんの仲間ができることの価値はとて
も大きい。
 - 個人としても組織としても。
- 外向きの目線を優先していると、社内はむしろ敵に
見えるかもしれない。
 - そこは踏ん張りどころ。
- メンバが外に出て活躍することを妨げない。
 - それを機に転職するメンバもたしかに
いる。人材の流動化には逆らえない。牢屋に
入れておくのは誰のメリットにも
ならない。

ご清聴ありがとうございました

